

国際交流員ザブリーナ・リンの「ラム

ドイツの大晦日



大晦日の花火大会

皆様、新年おめでとうございます！
12月31日の大晦日はドイツなどヨーロッパ各国ではシルベスター(Silvester)と呼ばれています。ドイツではとても賑やかな日であり、年が明ける12時前には皆でカウントダウンをし、花火を行います。この花火をする習慣はゲルマン民族が古くから続けているものであり、アニミズム信仰と通ずる「火で清める」「お祓いをする」あるいは「悪霊を祓う」という意味があるようです。その意味を理解している人は少ないとは思いますが、一般的にシルベスターは来年へ向けてのお楽しみの日となりました。大きな市だと、大勢の人がシャンパンを片手に花火大会の見物に行きます。田舎では、自分で打ち上げ花火や爆竹を買って、自分の家の前で火をつけ、家でパーティーをします。日本の夏の花火大会の様子と似ていると思います。子供の頃、私とお父さんと弟で打ち上げ花火に火を着けるのはとても楽しかったです。でも花火大会を開催するための資金は、大きい市になるほ

どすごい額になります。そのため、近年では「花火大会の開催を自粛しましょう！お金は共同募金のために使いましよう！」という声もだんだん増えています。

シルベスターには花火だけではなく、他の習慣もあります。例えば鉛溶かした鉛を水の中に入れた時の形で一年の運勢を占うというものです。(ハート=新しい出会い、クローバー=大吉、馬蹄=仕事の成功など。) シーズンになるといろいろなお店で鉛占いセットが売っています。深い意味はない新年のお楽しみ行事です。大晦日は家族と過ごす人もいますが、友達と遊ぶ人の方が多いと思います。その時には皆お酒を



たくさん飲むので、二日酔いになる人も少なくありません。大晦日によく飲まれるお酒としては、スパークリングワインで作る、イチゴのフルーツポンチのような「エルベドール・ボール」(Erdbeerbowle)と「フォイアーツァンゲンボール」(Feuerzangenbowle)があります。

フォイアーツァンゲンボールというのはホットワインに似ていて、色々なスパイスを入れた赤ワインを温め、鍋の上に大きな砂糖を置いて(専用の台があります)、それにラム酒をかけて、火を着けます。溶けたラム酒漬の砂糖がホットワインの中に入って独特な味になります。結構強いお酒です。

他の習慣として、テレビで放送される有名な面白い番組(スキット)を見ます。「Dinner for One(90歳の誕生日)」と呼ばれるスキットは、ドイツでは誰でも知っていると思います。作者はイギリス出身であり、

1963年からドイツのテレビのための英語番組として作られました。1988年に世界中で一番繰り返し放送されたギネス世界記録にも登録されています。大晦日には他のお笑い番組も多いですが、お正月になると連邦首相の挨拶が放送されます。

フォイアーツァンゲンボール

国際交流員リンの「ドイツ料理」 第1回

「ドイツ料理」

第1回

ドイツといえば、ビール、ソーセージ、ジャガイモだと思いが一般的だと思います。もっと美味しいものもあります。せっかくですので、ドイツのジャガイモ料理の多種多様さを紹介していきたいと思っています。

ドイツのライベクアーヘン(Reibekuchen) かカルトツッフェルプフアー(Kartoffelpuffer)を聞いたことありますか？英語で言うところのパンケーキのことで、すりおろしたジャガイモの生地を、フライパンで焼いた料理です。みなさん味わってみませんか？

●日 時 1月29日(日) 午前10時～午後0時30分頃

●場 所 きらら館(調理室)

●参加費 一般 600円

国際交流協会会員 500円

●申し込み期間 1月10日(月)～26日(木)

●定 員 20名

●問い合わせ先 生活安全課

☎(40)5555

E-Mail

sashimotsuke

@gmail.com

